

序 文

古くから交通の要衝として栄えた私たちの高崎市は、現在でも中山道と三国街道をはじめ、関越自動車道と北関東自動車道。更には上越新幹線と長野新幹線の分岐点に当たり、重要な交通拠点として繁栄を続けております。

また平成18年から21年にかけて、倉渕村・箕郷町・群馬町・新町・榛名町・吉井町と合併し広大な市域と県内一の人口を誇る大都市になりました。

今回、このような高崎市で生活を続ける市民の福祉の充実と交流の場を提供するために、総合福祉センターを吉井町に建設することになりました。

この地には天仁元年（1108年）に浅間山が噴火した際に降下した火山灰が残っており、当時の人々が生活した痕跡を今も見ることができます。

地中に眠る高崎市の歴史を、発掘調査によって数多く得ることができました。本書はこの発掘成果をまとめた報告書であります。

この報告書を教育資料として広くご活用いただき、高崎市の歴史について思いを馳せていただければ幸いです。

最後にりましたが、発掘調査や本書作成に際し、ご指導・ご協力をいただきました関係諸機関の方々に厚く感謝を申し上げ、序といたします。

平成26年3月

高崎市教育委員会

教育長 飯野 真幸

例 言

- ・本書は吉井地域障害者福祉施設及び吉井総合福祉センター（仮称）建設に伴って事前調査された吉井城東遺跡（高崎市遺跡番号537）の発掘調査報告である。
- ・本遺跡は高崎市吉井町吉井480他に存在する。
- ・発掘調査及び整理は高崎市教育委員会が行った。
- ・本遺跡の発掘調査は平成24年4月23日から平成24年5月31日まで行った。
- ・発掘調査・遺構図等の整理・遺物の整理及び報告書の執筆は黒田晃が担当した。
- ・遺構の写真撮影は黒田晃が行った。
- ・遺構の平面測量及び断面図作成は担当職員が行ったが、一部株式会社測研に委託した。
- ・出土した遺物及び各種原因は高崎市教育委員会が保管している。

凡 例

- ・遺構番号は原則として発掘調査時に付したものを使用した。
- ・遺構挿入図に使用した方位記号は、座標北を示している。座標値は国際座標を使用している。
- ・土層注記の色調は、農林省農林水産技術会議事務局（財）日本色彩研究所監修『標準土色帳』を使用した。
- ・遺構実測図の縮尺は原則として全体図を1/200、個々の遺構平面図・断面図を1/80とした。
- ・本書で火山砕屑物の略号を使用する場合、下記のものを使用した。

浅間A軽石：As-A

浅間B軽石：As-B

浅間C軽石：As-C

- ・本書で使用した地図は下記の通りである。
国土地理院 地形図「富岡」1/25,000

目 次

序

例 言

凡 例

目 次

第1章 調査の方法と経緯

第1節 調査に至る経緯	2
第2節 調査の方法	2
第3節 調査の経緯	2

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と周辺地形	3
第2節 周辺の遺跡と歴史的環境	3

第3章 検出された遺構

	5
--	---

第1章 調査の方法と経緯

第1節 調査に至る経緯

現在、高崎市吉井町に存在する「吉井保健センター」敷地内には、「在宅重度心身障害者デイサービスセンター」、「地域活動支援センター」、「障害者支援センター」が所在している。このうち、「在宅重度心身障害者デイサービスセンター」と「地域活動支援センター」の機能充実と、建物の更新を合わせた施設整備を行うこととなり、また同じ敷地内に地域福祉の充実と交流の場や福祉相談の拠点として「総合福祉センター」を建設することとなった。

この地は周辺の発掘調査の結果から、平安時代の天仁元年（1108年）に浅間山が噴火した際に降下した火山灰に埋もれた水田跡が検出されることが想定されているため、試掘調査を行う必要があるとされていたが、調査地が障害者施設の駐車場であることから試掘の実施が困難であるため、平成24年度の高崎市一般会計に発掘調査費を計上することとなった。

調査は平成24年4月23日に着手し平成24年5月31日に終了した。

第2節 調査の方法

今回の調査地点は縄文土器・古墳時代中・後期の土師器・須恵器、近世の陶磁器等の破片が採集され、包蔵地として認定されている3地点に隣接しているため、多くの時代の遺構が検出される可能性が考えられた。また重機による表土掘削の際には、平安時代の天仁元年に浅間山が噴火した際に降下した浅間B軽石（以下As-Bと表記）の堆積層が想定されていたため、As-B層を検出できるよう慎重に掘削を行った。

しかし平安時代以降に整地の掘削を行ったらしく、As-Bの純堆積を確認することはできなかったため、表土下のシルト質の地山まで掘削して遺構確認を行った。

調査の結果、溝が6条とピットが4基検出されたが、各遺構とも遺物が出土しておらず、ピットも建物を構成するような配置ではなかったため、時期を確定することができなかった。

第3節 調査の経緯

平成24年4月23日より現在駐車場として利用されている調査地点の掘削のためコンクリートカッターでアスファルト剥ぎを開始し、翌月の5月8日よりバックホー及びクローラーを用いて表土剥ぎを開始した。表土は深い地点まで後の時代の攪乱で掘削されており、As-Bの純堆積を確認することはできなかった。従ってそれより下位にあるシルト層までを重機掘削して遺構の確認を行うこととなった。遺構の確認及び掘削は作業員によって行い、遺構平面図は委託によって作図した。また遺構の写真は担当者が撮影した。

調査区の中央西寄りには南北方向に伸びる現役の水路があり、ここを境に東西に分割されることから、水路より西を1区、東を2区と呼称した。

1区・2区からは東西方向に伸びる溝とそれと直行する南北方向の溝が検出され、溝に沿うような形で連続するピットが検出された。また、調査区東端部は深い谷となっており、遺構は存在しなかった。

調査終了後は、重機を使用して調査区の南の駐車場に置いてあった廃土を使用して埋め戻しを行った。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と周辺地形

吉井城東遺跡は、群馬県南西部の高崎市吉井町吉井に存在する。本遺跡の北方には鍋川が東流している。

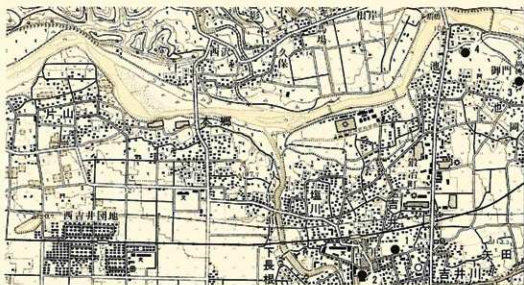
この鍋川は群馬県下仁田町と長野県佐久市との境にある物見山に源を発して南東流し、下仁田市街地周辺で南牧川と合流し東に流路を変えている。鍋川流域は特に右岸城において顕著な河岸段丘が発達しており、上位・下位段丘に2分される。この段丘面は各時代を通じて様々に土地利用されてきたが、現在は下位段丘面は水田として、上位段丘面は桑畑などの畑地として利用されている。

遺跡の標高は120m前後を測るが、遺跡の南に展開している牛伏山・城山などを含む丘陵部から、北の鍋川に向かって幾筋もの小河川によって、細かい侵食を受けている。

第2節 周辺の遺跡と歴史的環境

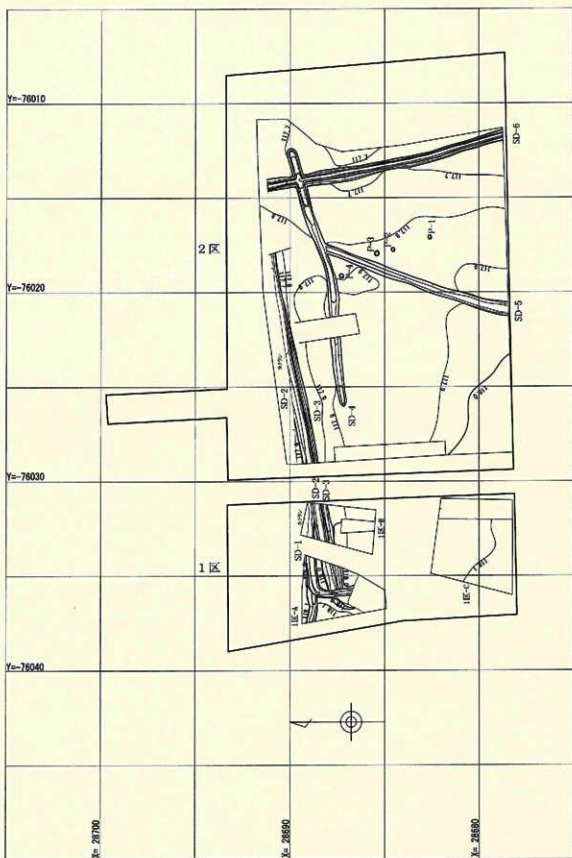
当遺跡の北東には上野三碑の一つである多胡碑③が存在しており、この周辺に多胡郡の郡衙が置かれていたと考えられている。また多胡碑の北東鍋川右岸には古墳群が存在しており、多胡碑の南東にも前方後円墳である二子塚を含む塚原古墳群④が展開している。

遺跡に隣接する地域ではあまり埋蔵文化財の調査が行われていないが、「吉井町遺跡地図」(1995 吉井町教育委員会)によれば、遺跡の北に包蔵地№53が、西には№99が、そして南には№102が存在しており、それぞれから縄文時代・古墳時代・平安時代・中近世の遺物が確認されている。また遺跡の西に隣接して江戸時代吉井藩の藩丁が置かれていたとされる吉井陣屋②が存在していたことも注目される。



1. 吉井城東遺跡 2. 吉井陣屋 3. 多胡碑 4. 塚原古墳群

第1図 周辺の遺跡 (国土地理院2万5千分の1地形図「富岡」より作成)



第2図 調査区全体図(S=1/200)

第3章 検出された遺構

西側の調査区である1区は現在使用されている水路などがあるため掘削不可能な部分があり、3箇所に分割されている。これらを1区A～Cと呼ぶ。南側の1区Cは後の掘削等により破壊を受けているため遺構が存在しなかった。北側に並ぶ1区A・Bでは東西方向に伸びる3条の溝が検出されている。これらの溝の断面A-A'を見ると、それぞれの溝の上層にAs-Aと考えられるバミスを含む層（2層）に覆われている。この2層の下層からはバミスが検出されなかったため、溝の時期は少なくとも天明三年以前であると推定される。

SD-1

1区A・Bの北端をほぼ東西方向に伸びる溝で、深さは約12cm、底は平坦で幅28cmを計測する。1区Bから直線的に伸びて1区Aに入り90度南に曲がる溝と西へ直進する溝に分岐する。溝は西から東に向けてやや北向きに続いているため、隣接する2区では確認できなかった。

遺物が出土していないので遺構の時期は確定できない。

SD-2

SD-1の南に沿って伸びる溝で、深さは約10cmあり溝底はやはり平坦で幅28cmを計測し、2区からも検出された。またSD-1が1区Aの途中で南に曲がるのと同様にSD-1の西側で南に曲がっている。

形状の一致からSD-1と同じ性格の溝であると推定されるが、遺物が出土していないので時期は不明である。

SD-3

SD-2の更に南に並ぶ溝である。SD-1・2と異なり溝底は平坦ではなく、深さは12cmを計測する。溝の続きは2区の北端にも連続しているが、西側はSD-1・2が南に曲がった地点から西へは続いていない。溝の並び方・規模等からSD-1・2と同じ性格の溝であると推定されるが、SD-3も遺物が出土していないため時期は不明である。

2区ではSD-1～3と平行に伸びる溝（SD-4）とこれと直行する溝（SD-6）、更に若干これらと傾きが異なる溝（SD-5）が存在するが、SD-4・5は2区中央北寄りで接合し、更にSD-4・6も調査区北東で十字に交わる。ピットが4基（ピット1～4）検出されているが建物構成する柱跡ではないようである。

SD-4

2区の北側を東西方向に伸びる溝であるが、西の1区では確認されなかった。溝幅は約60cmあるが、深さは10cm前後と浅い。調査区北西寄りでSD-6と交差するが、交差する地点より手前から深くなり、交差地点ではSD-6と同じ深さになる。また、調査区中央北寄りでSD-5と接続する。

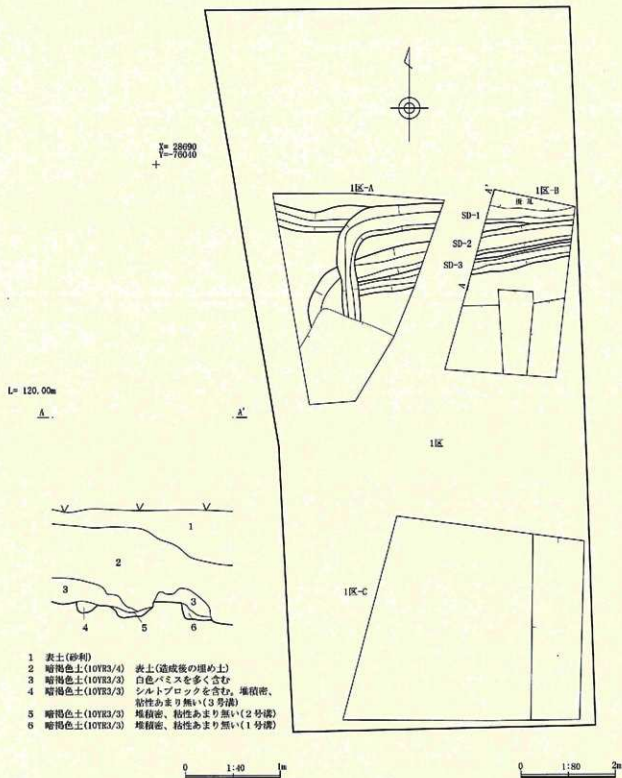
遺物が出土していないので時期は不明である。

SD-5

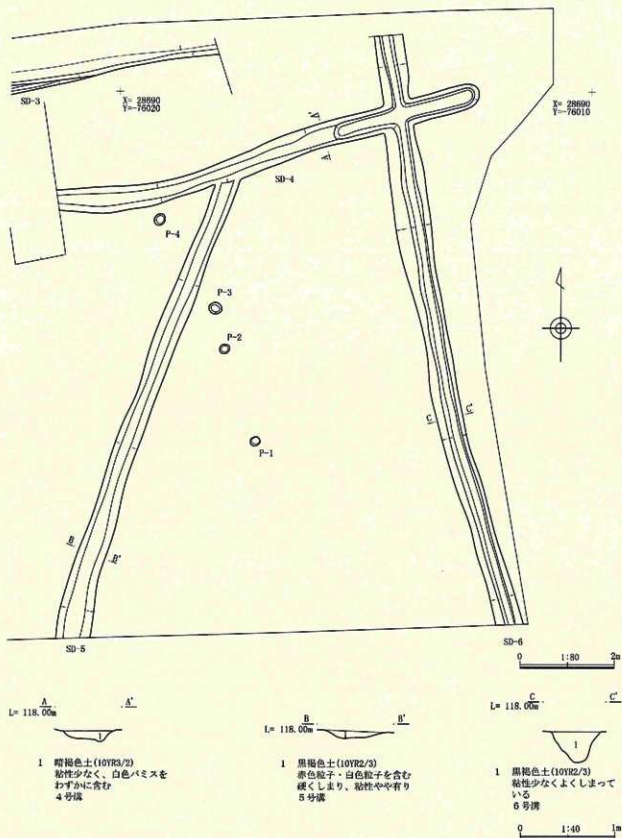
2区中央を南東から北西に伸びる溝で、幅は約60cmあるが深さは8cm前後である。調査区北側でSD-4に接続し、そこから北は続かない。遺物は出土していない。

SD-6

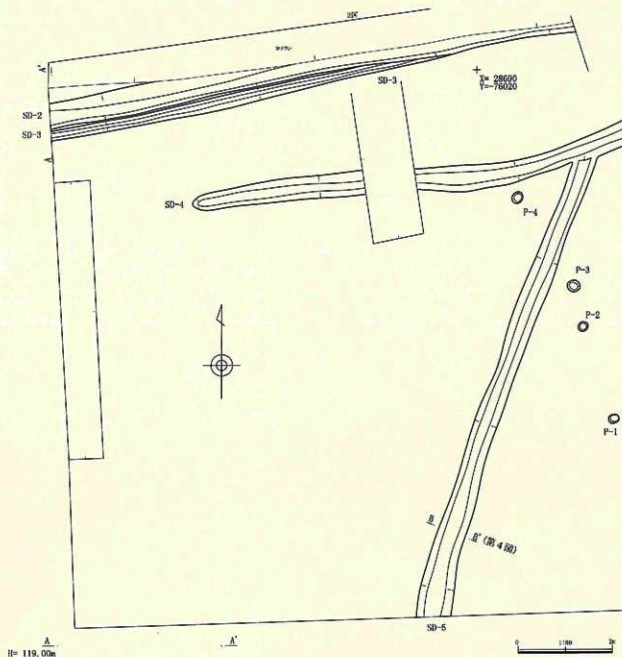
2区東側を南北方向に伸びる溝で、SD-4と直行する。幅は60cmとSD-4・5と変わらないが、深さが32cmあり薬研状に底がややとがった掘り方をしている。遺跡内で検出された溝の中では最もしっかりしたつくりであるが、遺物が出土していないため時期が確定できない。



第3図 1区平面図(S=1/80) 1～3号溝断面図(S=1/40)



第4図 2区平面図①(S=1/80) 4~6号溝断面図(S=1/40)



H= 119.00m



- 1 暗褐色土(10YR3/4) 表土(造成後の埋め土)
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 白色バミスを多く含む
- 3 暗褐色土(10YR3/3) シルトブロックを含む、堆積密、粘性あまり無い(3号溝)
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 堆積密、粘性あまり無い(2号溝)

ふりがな	よしいじょうとういせき					
書名	吉井城東遺跡					
副書名						
巻次						
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書					
シリーズ番号	第324集					
編著者	黒田 晃					
編纂機関	高崎市教育委員会					
所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町36-1					
発行年月日	2014年3月31日					
所収遺跡名	所在地	コード		調査期間	調査原因	
		市町村	遺跡番号			北緯
吉井城東	群馬県高崎市 吉井町	0202	537	361519	20120423	吉井城城跡調査 福祉施設及び吉井 総合福祉センター 建設
				1385912	20120531	
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	
吉井城東		平安		溝・ピット		

第5図 2区平面図②(S=1/80) 2号・3号溝断面図(S=1/40)



重機によるアスファルト除去作業



1区掘削作業①



1区掘削作業②



2区遺構検出作業



1区掘りあがり①



1区掘りあがり②



1区掘りあがり③



2区調査風景①



2区検出状況(北より)



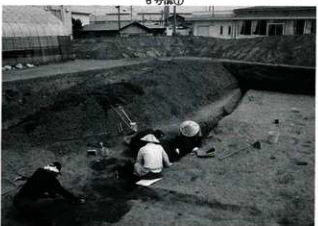
2区全景(東より)



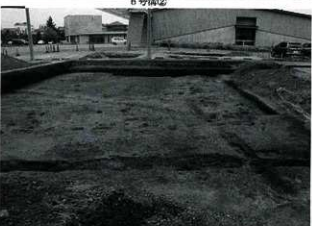
6号探①



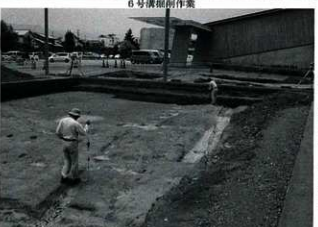
6号探②



6号探掘削作業



2区完掘状況(東より)



2区平面実測作業



埋め戻し風景

高崎市文化財調査報告第324集

吉井城東遺跡

印刷・発行 2014（平成26）年3月31日

発 行 高崎市教育委員会文化財保護課
〒370-8501
群馬県高崎市高松町35-1番地
電話 027（321）1292

印 刷 杉浦印刷株式会社
